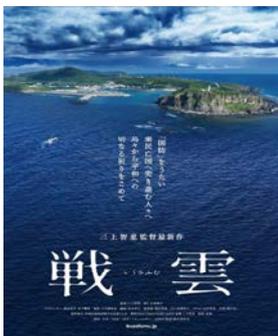


5月3日は77回目の憲法記念日でした。私たちは『平和憲法』を持っています。ウクライナやパレスチナでは多くの市民が戦争の犠牲になっています。人の命より大切なものがあるでしょうか。強く停戦を求めます。日本でも大軍拡が進められています。戦争の準備が戦争を招くことになりはしないか、不安な思いでいっぱいです。私たち大人は子どもたちが幸せに暮らす社会であってほしいと願っています。戦争では幸せになれません。平和のために力を発揮する政治を求めて、目を光らせ、声を上げていきましょう。

沖縄の映画からこの国の平和を考える

私たちの平和な暮らしが危うくなっていることを教えてくれるドキュメンタリー映画が2本、今年3月に松山のシネマルナティックで上映されました。ご紹介します。



「戦雲 (いくさふむ)」 (監督:三上智恵)

住民の意思が住民を守るべき行政によって、いとも簡単に踏みじられていく現実、住民投票を条例から削除してまで……。

美しい島に次々と運ばれていく、人を殺めるための機械たち、そして、この現実をほとんどの日本国民は知らない。国防は国全体の問題なのに、議論のないまま、沖縄へと押し付けられていく。

太平洋戦争で、松山が空襲にあったのはなぜだ？ それは、戦闘機が松山空港から飛び立っていたからだ。軍事施設があるから狙われる。軍を配備するということは、狙ってくださいというようなものだ。与那国島において、それを決めたのは、町長たった一人。町長権限だそうだ。「戦争」という言葉がなかった与那国島は、今や戦争を想定し、シェルターを作る予算が決められた。

宮古島も石垣島も沖縄本島も、住民の意思とは裏腹に、どんどん要塞化されていく。

ただ、宮古島の楚南有香子(そなん ゆかこ)さんは、「まだ戦争になっていなくて、まだ誰も死んでない。だから諦める必要ない」と言う。そして、その母の姿をずっと見ていた小学6年の明香里さんは、「お母さんのような正義感の強い人になりたい」と。そこに、一筋の光を感じた。

安保も原発も税金も年金も、私たちは諦めることなく、声を上げ続けていきましょう。(青野悦子)

「戦雲 (いくさふむ)」は「また戦雲が湧き出してくるよ、恐ろしくて眠れない」と歌う石垣島の抒情詩とつばら一まの歌詞に由来する。

「沖縄狂想曲」 (監督・構成:太田隆文)

「沖縄狂想曲」は、沖縄社会の戦後から現在までを描いたドキュメンタリー映画です。

多くの登場人物が、辺野古への新基地移設問題、オスプレイ騒音・墜落問題、ゴザ蜂起騒動(70年)、南西諸島・沖縄本島への自衛隊ミサイル部隊の配備等色々な問題を語ります。

大田昌秀元沖縄県知事は日本政府による沖縄への理不尽な扱いを、辺野古基地移設で「最低でも県外」というコメントを出した鳩山元総理は、閣僚からも大事な情報を何も知らされないという嘆きを語ります。

また沖縄国際大学の前泊博盛教授は、2004年8月に起きた米軍ヘリが同大学に墜落した際の状況から日米地位協定のひどさを解説しています。このヘリ墜落事件は、ちょうど沖縄旅行中だったのでよく覚えています。

この映画はこれまで知っていた事実はもちろん、新たに問題の裏側も含めいろんなことを教えてくれました。日本政府と沖縄の関係、日米合同委員会なるものは、開催されても総理や国会にも内容の報告がないということ、ましてや一般国民はそんな委員会があることも殆ど知らないのではないのでは。

つくづく感じたのは日本はアメリカへの属国化が一層進んでいるのではないかということです。これからも色々な映画を見て楽しく(ばかりでは無いですが)勉強していきたいと思えます。(前田勇次)



愛媛県公文書センター設置への期待

2月12日の武井さんの「県議会報告会」で、愛媛県が公文書館設立の準備をしているとの報告がありました。実は公文書館は以前からその必要性を受けて、設立の計画は上がっていましたが、いつもうやむやになって立ち消えていました。その理由は、公文書館が図書館や博物館などと違い、その役割が住民に理解しづらく公文書館に対する関心が薄いためだろうと思われます。

しかし、公文書館は行政の歴史に関する文書を保存・活用し、知識の普及や開かれた行政の推進を目的としています。公文書は、組織の活動の記録であるだけでなく、住民にとっても貴重な記録であり、歴史を後世に伝えるとともに、将来の住民への説明責任を果たすための資料としても必要なものです。

今回、ようやく実現に向けて動き出したのなら、ぜひとも住民にとってよりよい公文書館を作っていたきたい。そうなるように我々も関心を持って成り行きを見守れるように、一度勉強会を開いていただけないでしょうか。（大早友章）



■ 伊方原発をとめる会 第14回定期総会

日時：5月26日（日）13:30～16:00

会場：コムズ 大会議室

記念講演：「終わらない原発事故と福島は今」

武藤類子さん（福島原発告訴団・団長）

■ 第67回 えひめ母親大会

日時：6月9日（日）10:00～16:00 午前：分科会 午後：全体会

会場：松前総合文化センター（松前町筒井633）

分科会講師：岡村真さん、高井弘之さん、渡邊啓之さん 他

記念講演：「明日から話したくなる平和の話」石川康宏さん（神戸女学院大名誉教授）

資料代：1000円 ※チケットを武井事務所で預かっています。

問い合わせ：大会実行委員会（Tel/Fax089-933-2493 愛媛県教育会館内）

■ 伊方原発運転差止訴訟 第40回 口頭弁論期日（結審の見込み）

6月18日（火）14:00開廷 松山地裁31号法廷 13:00 裁判所ロビー集合

報告集会：15:45頃～ 愛媛県美術館講堂

問い合わせ：伊方原発をとめる会（Tel089-948-9990）

■ 憲法9条をまもる愛媛県民の会 第20回総会

日時：8月10日（土）13:15～

会場：愛媛県県民文化会館 別館 第11会議室

記念講演：上脇博之さん（神戸学院大学法学部教授） ZOOM出演

問い合わせ：憲法9条をまもる愛媛県民の会（Tel089-913-0448）

〈ノーモア沖縄戦・えひめの会〉リーフレット100万部配布プロジェクトのご紹介

本当に「中国は攻撃して来る」のだろうか？ 「中国脅威論」を理由に進む日米の戦争態勢

いま沖縄・奄美を中心に、九州、西日本、全国で着々と築かれている「中国への軍事態勢」。攻撃用ミサイル基地や部隊の配置、空港港湾の軍事利用など、戦争の準備が急ピッチで進んでいます。

しかし「中国脅威論」が誤りであると分かれば、「大軍拡は必要だ」という世論を変え、戦争をやめさせることができると考えて作られたリーフレットです。目標は100万部配布！ ご協力をお願いします。

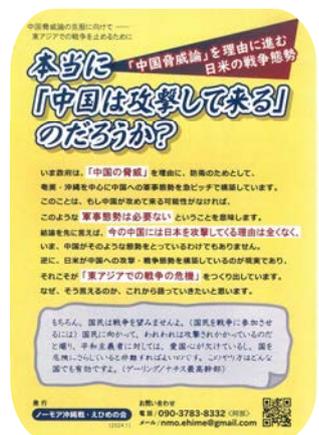
1部10円（A5判/カラー/8ページ）

発送希望の方は100部以上でお願いします。（送料実費）

【お問い合わせ、ご注文先】

電話 090-8282-6077（立田さん） 090-3783-8332（阿部さん）

メール nmo.ehime@gmail.com



武井事務所は月曜日から金曜日の10時～16時に開けています。お気軽にお立ち寄りください。